



学校だより

横浜市立大鳥小学校

令和2年 1月10日 発行

1月号

大鳥小

検索

【大鳥小学校Webページ】

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/ohtori/>

学校教育目標

〒231-0806 中区本牧町1-251

学校長 水島 貴志 TEL 621-7700

はばたく子

◆やさしい子

◆たくましい子

◆かしこい子

みんなの夢がかなう2020へ

校長 水島 貴志

保護者、地域の皆様、新年あけましておめでとうございます。旧年中は本校の教育活動に多大なるご理解・ご協力をいただき、本当にありがとうございました。本年も引き続き、よろしく願いいたします。

昨年は、年度中に平成から令和へと時代が移り、大きな変化を感じさせる1年となりました。とは言え、教育の世界は「不易と流行」。時代が移り変わり、変えていかなければならないことも多々ありますが、変わらず大事にしていきたいこともあります。毎日の教育活動の中で、あるいはBSFや遠足・宿泊体験学習などの行事の中で、子どもたちが主体的に学習・活動する姿を追い求めてきた本校ですが、締めくくりとなる12月にも大きなイベントが3つありました。

一つ目は、たんぼぼ級の子どもたちが参加した中区合同野島宿泊学習。中区10校の個別支援学級の子どもたちが参加するもので、「みんなのじまんは にこにこえがお!!」のテーマのもと、今回は総勢180人超の参加となりました。1年生から参加するので、6年生でこれまで皆勤賞の子ならば、各学年の宿泊体験学習も合わせると、全部で9回、延べ11泊程度の外泊となります。その中で得るものは大きく、これまでも子どもたちは「自分でできることは自分でやる。」という自立心や仲間と協力し合う協調性を養ってきました。今回も、宿舎の廊下に貼り出された交流級の友達の寄せ書きに励まされながら、たんぼぼ級の子どもたちは12月の海辺の寒さに負けずに充実した2日間を過ごしてきました。一人ひとりが一回り大きくなるとともに、クラスの結束力がさらに高まったことと思います。(次頁へ)



(前頁より)

二つ目は、本校独自の行事の目玉の一つである「わくわくワールド2019」。各学年あるいはクラス単位で生活科や総合的な学習の時間を中心に準備を進め、当日は多種多様な発表が校内のいたるところで行われていました。「つくりだす ～みんなのゆめをかなえる わくわく2019～」のテーマのように、子どもたちは自分の思いをもって活動に参加し、準備の過程で創り出したものを堂々と発表するとともに、本番当日も開会式で紹介された大きなニコラスの像(?)に象徴されるように、学校全体で何かを創り出すことができたように感じます。

三つ目は、冬休み直前に行われた長縄集会。休み時間を中心に、各クラスあるいは色別に長縄の練習を重ね、本番当日もたてわりの友達の声援を受けながら、自分たちの最高記録を目指してみんなで息を合わせて跳んでいました。と、ここまでは他の学校でもよく見る光景ですが、「大鳥小らしいな。」と感じたのはこの後です。回数を競うわけですから、当然1～3位の順位がつくのですが、それぞれの色のキャプテンの6年生が、自分たちの順位に見合った言葉を自分の色の仲間に向けて投げかけるのです。そして、3人とも共通して言っていたことは、「結果以上に過程が大事。」ということでした。勝って調子に乗る、負けてがっかりするところを、目標をもってがんばってきたことを認めることで「みんな同じように価値がある体験をした。」とまとめることができる6年生、そしてそれを素直に受け止める他の子どもたち。一瞬ではありましたが、素敵な場面を見たな、と感じました。



年が明け、2020年、令和2年が始まりました。今年は子(ねずみ)年。「子(ね)」は「繁殖する・うむ」という意味をもつ「孳」という字からきており、「新しい生命が種子の中にぎざし始める状態」を表していると言われています。十二支の1番目にきているように、新しい物事や運気のサイクルが始まる年になる、と考えられています。また、動物に当てはめると「ねずみ」ですが、ねずみはたくさんの子を産むことから繁栄の象徴とされています。今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されるとともに、本校の創立100周年の年。我が国、そして本校にとって、みんなの夢がかなえられる繁栄の年、そして次の時代に向けて新たな目標をもってスタートを切る年になることを願っております。保護者・地域の皆様におかれましては、今年も本校の教育活動に対するご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。